



第一部 地域医療に関する意識調査報告

発表／暮らし満足度向上委員会

いわきの医療環境改善へ向け 市民・医療従事者双方へのアンケートを実施

本年7月から8月末にかけて下記のアンケートを実施。

A:市民への『医療環境意識調査』

→回答数:610件

B:医療機関への『医療従事者実態調査』

→回答数:296機関に送付し、87件

A:市民への『医療環境意識調査』内容

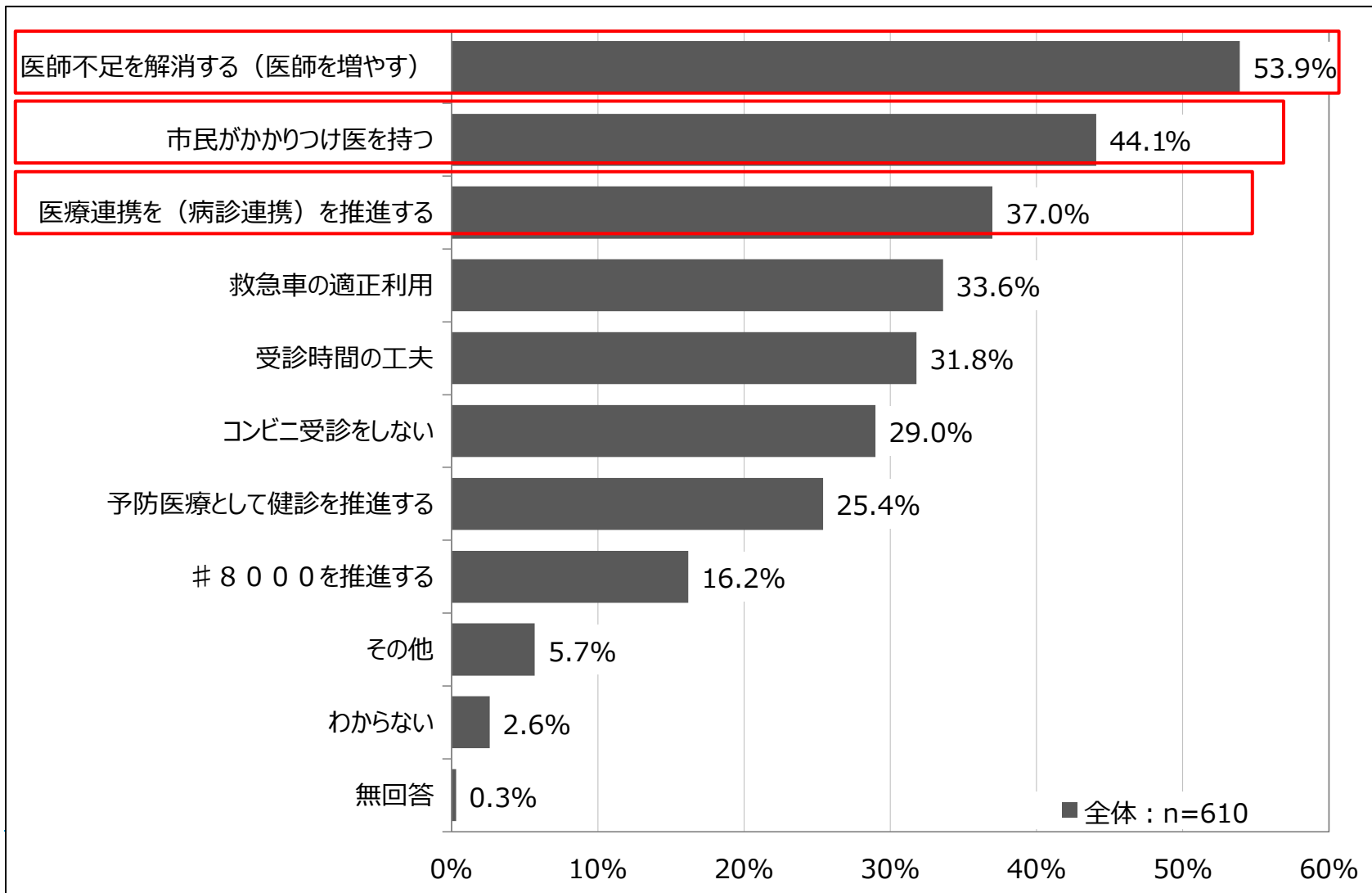
▶ Q1:性別 Q2:年齢

- ▶ Q3:いわき市に於いては、「**医療機関での待ち時間が長い**」や「**夜間・救急時の対応に不安を感じる**」など、医療環境に満足していない状況が多く見られます。
これらの**医療環境を改善するために必要な取り組み**は何だと思えますか。(複数回答可)
- ▶ Q4:あなたはいわき市の**医療環境をさらに良いものとする**ために**既に取り組んでいるもの**はありますか。(複数回答可)

A:市民への『医療環境意識調査』結果 Q3について

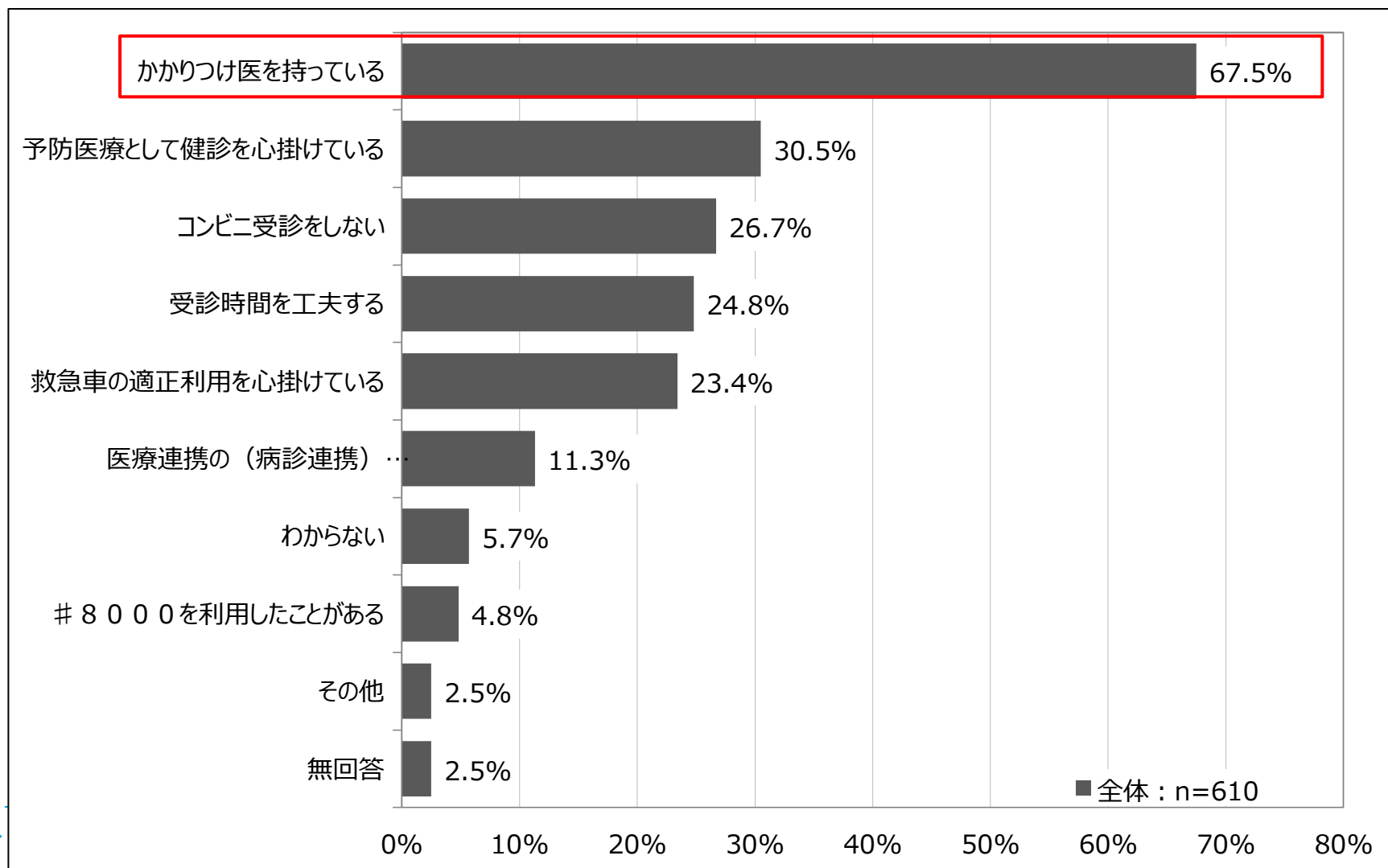
▶ Q3: **医療環境を改善するために必要な取り組み**は何だと思いますか。(複数回答可)

回答数：610



A:市民への『医療環境意識調査』結果 Q4について

▶ Q4:医療環境をさらに良いものとするために、既に取り組んでいるものはありますか？



回答数：610

B:医療機関への『医療従事者実態調査』内容

- ▶ Q1: 貴院は病院ですか？ 診療所ですか？
- ▶ Q2: 貴院に所属されている常勤の医師数を教えてください
- ▶ Q3: 昨年度、当青年会議所に於きまして、いわき市の深刻な勤務医不足の問題を取り上げ、医療環境をより良くするためにはさらなる医療連携が必要ではないかとの結論を導き出しました。**貴院にとって理想的な医療連携とはどのようなものか**をお聞かせください。
(自由記述)
- ▶ Q4: 問3を実現するためにはいわき市民もさらなる意識の改善が必要であると思います。**いわき市民に今後最も協力して欲しいこと**は何ですか。
(自由記述)
- ▶ Q5: 当青年会議所のこれまでの医療問題に対する取り組みについてどのように思いますか？(自由記述)

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q3について

Q3:理想的な医療連携とはどのようなものか？に対する回答例

①

- 専門医療機関との連携の必要性。
- 高度な医療施設の必要性。

- ・私の考えでは医科大学医学部付属病院との連携は欠かせません。大学附属病院にとってもメリットがある方業を考えたいと思います。
- ・まずは、すべての診療料において高次医療が可能な診療施設が望ましい。しかしいわき市にはそのような施設は存在しないので、疾患によっては市外へ紹介しているのが現状です。
- ・むずかしい疾患の患者はいわき市内の病院では受け入れできず、郡山の南東北病院や太田西ノ内病院に頼んでいる状況である。磐城共立病院を基本的にどんな患者でも受け入れられるように、医師を増やすべきである。(給与をもっと上げるべきである)

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q3について

Q3:理想的な医療連携とはどのようなものか？に対する回答例

②

○診療所・開業医と病院の スムーズな連携の必要性。

- 限定的な医療資源を有効に利用するため、得意な部分を相互に利用し、重複を避けるべき、又、主治医がもう少し責任を持って診療にあたる。
- 病院診療所、それぞれの立場で仕事をする事、相手を信用して患者を紹介、逆紹介すること、この点に尽きると思います。
- 病診連携、スムーズな入院。 外来受診、外来はクリニック、病院(大きな)は入院

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q3について

Q3:理想的な医療連携とはどのようなものか？に対する回答例

③

- 勤務医不足の解消。
- 勤務医の負担軽減、行政による支援の必要性。

- 勤務医不足は、研修医制度などの変革によるものが大きく、医療連携の問題以前の国の制度の欠陥が原因と考えます。以前の制度を肯定している訳ではありませんが、国の制度をもう一度考えなおして欲しい。
- 勤務医不足の解消策を考える事が重要。この人数で医療連携は上手くやれている方だと思う。
(理想的には、自分の手に負えない患者さんをその疾患を得意とする医師にいつでも紹介できれば良い。入院が必要ならすぐ入院。)

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q3について

Q3:理想的な医療連携とはどのようなものか？に対する回答例

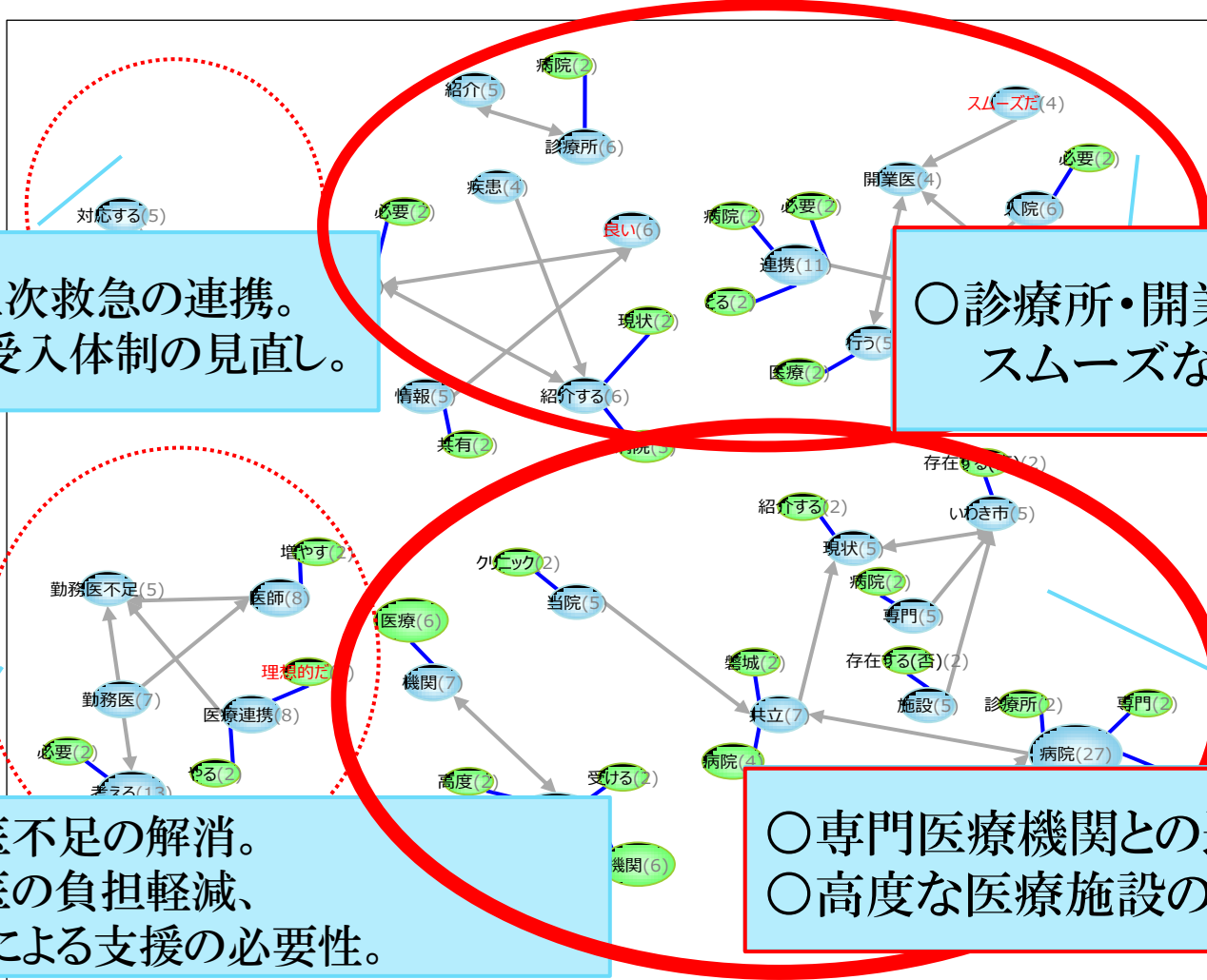
④

- 一次・二次救急の連携。
- 救急の受入体制の見直し。

- 病診連携診察連携がスムーズに行く事が基本的と考えますが、救急時の連携になるとうまくいかないのが現状で大きな問題と思います。
- 一次救急の傷病、及び慢性疾患で軽度のものは診療所で充分対応できますが二次救急の場合病院を探すのが大変(特に時間外だと)

B: 医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q3について

Q3: 貴院にとって**理想的な医療連携**とは どのようなものかをお聞かせください。
(自由記述)



④

- 一次・二次救急の連携。
- 救急の受入体制の見直し。

②

- 診療所・開業医と病院のスムーズな連携の必要性。

③

- 勤務医不足の解消。
- 勤務医の負担軽減、行政による支援の必要性。

①

- 専門医療機関との連携の必要性。
- 高度な医療施設の必要性。

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q4について

Q4:いわき市民に今後最も協力して欲しいことは何か？に対する回答例

①

- かかりつけ医の必要性。
- 病院と診療所受診の使い分けへの理解。

- 可能な限り地域完結医療を市民が要求すること
(医療側、行政より与えられるものを当然とする考え方を変換すること)
地域の病診、病院連携を積極的に理解しつつ、かかりつけ医の存在を意識し、
医師への感謝を表現すべきです。
- 市民の方には、かかりつけ医を見つけて、何かあれば、まずは大きい病院ではなく、
担当医に相談をして頂き、受診場所が集中しないよう、
協力して頂ければと思います。

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q4について

Q4:いわき市民に今後最も協力して欲しいことは何か？に対する回答例

②

○救急医療の適正利用への理解。

- 重病でなくても救急車利用が多いことも誘因の一つです。
普段からの健康管理が基本で、本当に急を要する際に救急車をと
思いう状況になれば良いですね。
- 軽度な症状における救急車の利用をひかえて欲しい。

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q4について

Q4:いわき市民に今後最も協力して欲しいことは何か？に対する回答例

③

- 医師や医療に対する理解。
- 市民の意識改革の必要性。

- ・医療内容を知ってほしい
- ・(客観的に)医療状況が厳しいことを理解すること
- ・まずは現状を認識してもらうこと。

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q4について

Q4:いわき市民に今後最も協力して欲しいことは何か？に対する回答例

④

○コンビニ受診の抑制。

- 自己判断で病院を初診の窓口にしなないこと。まず診療所の医師の判断をあおぎ、必要と判断されたら紹介状をもらって病院へ。
- コンビニ受診はひかえる。病院は土日休みのため、金曜日の午後に、診療所受診すると、病院紹介断られるケースが多い。
急に体調が悪くなったのでない場合は月～木での受診をすすめます。

B:医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q4について

Q4:いわき市民に今後最も協力して欲しいことは何か？に対する回答例

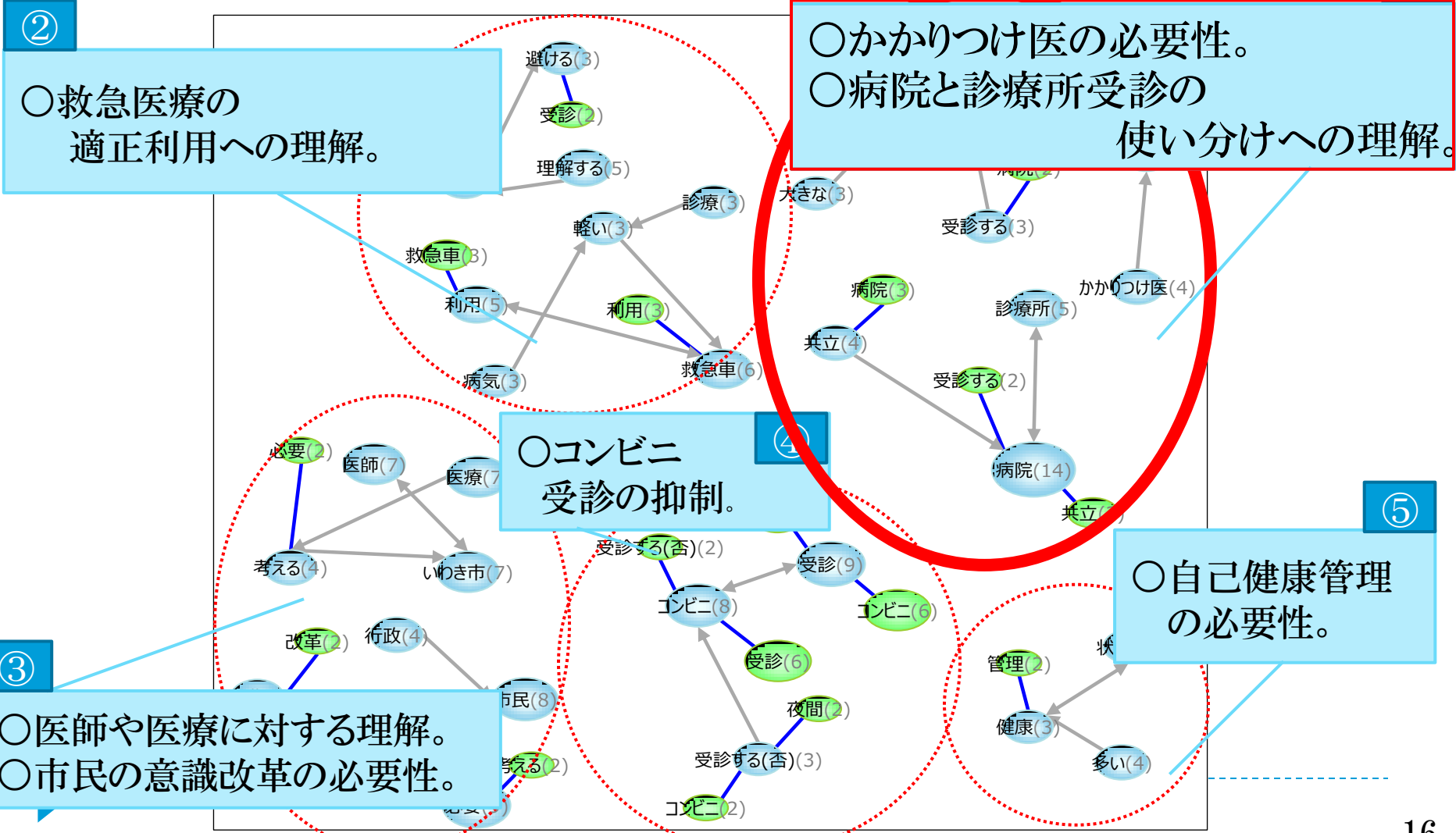
⑤

○自己健康管理の必要性。

- ふだんからの自己健康管理、(食事運動等)。特に肥満者が増えているので体重管理をきちんとしてほしい。
- いわき市で行っている検診(胃がん、大腸がん、肺がんなど)の受診率が他の市町村と比べかなり低いです。検診を促す個別指導などが必要ではないかと考えます。

B: 医療機関への『医療従事者実態調査』結果 Q4について

Q4: いわき市民に今後最も協力して欲しいことは何ですか。(自由記述)



アンケート結果からの考察

医療従事者の考え

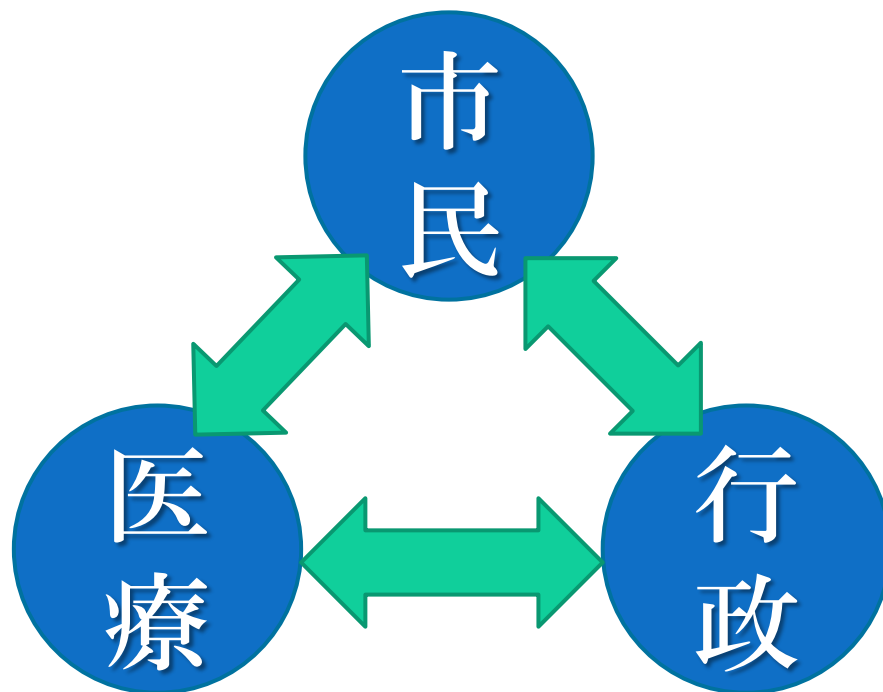
1. 医療連携を推進することが大切！
2. 医師(勤務医)不足を解消するべき！
3. 市民の医療への意識改革が必要！

市民の考え

1. 医師不足を解消することが最優先！
2. 市民がかかりつけ医を持つべき！
3. 医療連携を推進することが大切！

まとめ

- ▶ これらの結果を踏まえ、第2部のパネルディスカッションにおいて、



それぞれの立場がそれぞれの役割を認識し、問題点のさらなる共有、解決策の模索を図るきっかけを創出したいと思います。